～かんなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～

つながる

函南町幼児教育センターだより６号

令和６年６月発行

【発行】幼児教育センター（学校教育課内）　055-979－8121

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために

令和６年より町教育研究会の中に「保幼こ小中連携推進委員会」を新しく入れていただきました。６月１１日東小学校で行われた「第１回函南町教育研究会保幼こ小中連携推進委員会」で、幼児教育センターから、函南町架け橋プログラムの推進について、以下の内容を秋山アドバイザーから話させていただきました。

（仮）函南町保幼こ小中接続研究推進委員会に係る構想案

１　幼児教育と義務教育の『架け橋期プログラム』とは

『架け橋プログラム』とは、０歳から１８歳までの学びの連続性を意識し、「学びや生活の基盤をつくる幼児教育」と「学びを意識し、自分の課題を解決していく学校教育」を接続していく上で、**５歳児から小一の２年間を『架け橋期』**と称して焦点をあて、連携・接続を計画的に進める。

そのために、保幼こ小中の職員が幼児教育や義務教育を合同で理解し合う研修を深める。

２　目的

- 幼児の教育は「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」であり、学校教育のはじまりとしての幼児教育と小学校以降の教育との子供の発達や学びの連続性を明確にする。
- 育成すべきを目指す資質・能力の明確化や「主体的・対話的で深い学び」が実現するように、教育が発達の段階を踏まえた連続性・一貫性の基に施されることが重要。学校段階間の円滑な接続が必要。
- 入学当初の子どもが学習や生活の不安や不満から、その後の学校生活に支障をきたし、成長に大きな負の影響を与えないようにする。
- 幼児教育に携わる保育者の資質・能力の向上を図るとともに、学校教育に携わる教員も幼児教育について学ぶ機会を相互につくる。

※　架け橋期における教育の充実のため、子どもに関わる全ての関係者（＝保幼こ小中の職員）が立場を超えて、連携・協働で取り組む

３　これまでの取り組みと課題

【取り組み】

- 令和元年より接続期カリキュラム(５歳児後半から小学校１年生７月までの１年間)をそれぞれの教育施設で作成した。また、小学校ごとに、目指す子どもの姿を考え、連携を意識したカリキュラム作りに取り組んだ。
- 子ども同士の交流や保育者と教員がそれぞれの活動や授業を参観した。
- 特別に配慮が必要な子の情報交換、引継ぎを行った。（年に2回）。

【課題】

・育てたい子どもの姿が十分に共有できていないため、接続は意識されていたが幼児教育施設と小学校での子どもの学びについて意識の差があり、幼児教育で育まれた資質・能力をつなぐカリキュラム編成・実施が行われていない現状があった。

・幼児教育施設も小学校も単年度で担当が代わる為、5歳児担当者と小一担任がそれぞれの立場でカリキュラムを検討し実施するにとどまり、カリキュラムに対する理解が他の職員にまで広がらなかった。

・カリキュラムの成果を振り返り、評価したり改善したりすることができなかった。

4　目指す方向性（改善点）

「架け橋期」の教育の質を保障することを目指し、子ども一人一人の個性・多様性に配慮して、子どもすべてに質の高い学びの機会を提供できるようにする。

① 架け橋期の教育の充実のために**連携・接続推進委員会を立ち上げる**

② 幼児期の特性に関する小学校等の認識の共有を図るための参観・研修を充実する

③ 架け橋期の2年間のカリキュラムを小学校単位で作成し実施する

④ 作成したカリキュラムを評価する機能や体制をつくる（PDCA サイクル）

5　令和6年度函南町架け橋プログラム推進に向けての計画案

（1）組織

町教委		町教育研究会
【(仮)接続研究推進会議】 *委員 8名 校長(町教研) 1名 中学校長 1名(全体構想策定時) 教頭 1名 教務主任 2名 園長 1名 園主任 2名 *庶務 幼児教育センター *事業 ①町全体構想・・・義務教育終了時までに育ってほしい姿の作成・改善	②中学校区カリキュラム構想の作成・検討 ③町統合版カリキュラムの集約・改善 ④園校カリキュラム(アプローチ・スタートカリキュラム)の実施状況、改善 ⑤保幼こ小中連携推進委員会の事業実施の状況の確認 ⑥接続続研修に係る企画、運営	【保幼こ小中連携推進委員会】 *対象 園と小、中 *事業 教員間交流、子ども間交流、授業参観(5歳児、小1年) 例 ・6・7 月保幼こ小連絡会(就学児の参観、保育者と小中教員の意見交換、アンケート実施) ・子ども間交流(中学生の職場体験等の交流可能日程の調整、実施) ・授業参観(園内・校内研の案内、振り返りの会)、指導課訪問日等による ※隣接園校の交流

現状の取組

① 6・7 月保幼こ小中連絡会　就学児の参観、保育者と小中教員の意見交換、アンケート実施

② 8 月接続研修会　接続推進のために、講師招へいした研修会を開催、アンケート実施

③ 3 月保幼こ小中連絡会　就学に向けて引継ぎ、アンケート実施

④「つながる」発行

（2）今後の計画案（幼児教育センター）

年　度	内　　容
6年度	(仮)接続研究推進会議設置、架け橋期カリキュラム全体構想の検討　着手 ・(計画、方向性、内容を検討)・全体研修会・アンケート実施・評価 ・会議は、3～4回

７年度	・全体構想・２中学校区の育てたい子ども像・中学校区のカリキュラムの カリキュラム検討など・全体研修会　評価 ※接続コーディネーター配置
８年度以降	カリキュラム検討、改善　　評価

上記組織の中で、町教研「保幼こ小中連携推進委員会」と町教委主催の(仮)接続研究推進委員会の事業すみわけを提案しました。

また、町立園の公開保育の予定表をお配りしました。

＜町教研保幼こ小中連携推進委員長　松下校長先生より＞

町教研「保幼こ小中連携推進委員会」は新しくできた委員会なので皆さんからいろいろな意見をいただきながら進めていきます。

小学校の授業参観をしたときの経験から、自分のいる園・学校のことだけではなく、それぞれ前後について、長い目で見て知っておくことで指導の仕方が変わってくるだろうと思いました。

「園の先生方がどういう思いで小学校へあげてくれているとか、小学校の先生がこんなふうに育っていますよと、中学校へ送ってくれる。」など、それぞれの指導や思いを知っていただくと指導が変わっていくと思います。それをするのがこの委員会ではないかと考えます。

課題に、「育てたい子どもの姿が十分に共有できていない」とありますが、これを共有するためにどうしたらよいか、８月に検討していきたいと考えています。

２回目・３回目の委員会では、連携で何が出来るか考え、できることは実践していく。来年度に向けてもっとこんなこと、やったらよいことを見つけていったらいいと考えています。

小中学校の先生方、是非園に足を運んでください。特に、校長先生に相談して、自分の学校にあがってくる子どもを見に行っていただきたいと思います。

＜幼児教育センター　関野指導主事より＞

コロナ禍ですっかり低迷してしまった子ども同士の交流・授業参観・先生方の交流ですが、幼児教育と義務教育の『架け橋期のプログラム』の目的を再度読んでいただいて、先生方の方で是非進めていただきたいと思います。

忙しいと言ってしまえばそれで終わってしまいます。推進していかなければ子どもは育ちません。

よろしくお願いいたします。

＜町教研保幼こ小中連携推進委員　長本主幹（進行）より＞

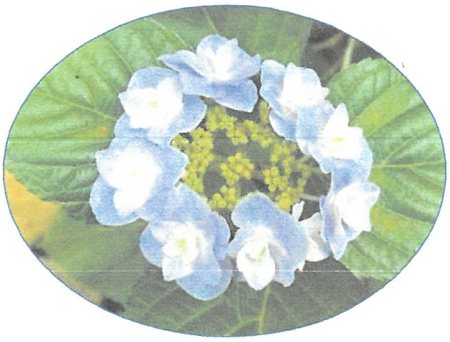
園小中それぞれが視野を広げてその視点で教育活動にあたることが目的となりました。積極的に先生方にも投げかけていただいて、交流の場、参観の場を設定していけたらと思います。

６月１４日から保幼こ小連絡会が始まります

全体会（45分程度）を以下のように行います。

よろしくお願いいたします。

※進行・・・主幹、教務主任（不在の場合は教頭）の先生



内容

（1）幼児教育センターより 連絡会の主旨等

・動画を視聴・・・彦根市立城東小学校「わくわくがいっぱい！」

入学直後の1年生の様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でとらえています。

（2）協議

視点1　園の先生から見て

子供たちのどのような成長が見られたか。

視点2　小学校の先生から園の先生に聞きたいこと

園では子供たちにどのように指導、支援、対応してきたか。

視点3　効果的な接続について

考えられることなどご意見をいただく。

3 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿　【かんなみ乳幼児教育カリキュラム P6より】

平成30年4月に「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」が改定されました。保育園と幼稚園が3歳からは同じ教育の機能があること、子供主体の学びが重要であること、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目が共通の指針として示されました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の各項目には、おおむね下図のような項目例があり、幼児の具体的な姿をイメージしつつ、豊かな教育活動が展開されるように工夫をしています。

左側の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にしてください。